

授業時間外学習の促進

社会科専修・川瀬久美子

1. 授業の概要

本授業の目的は、自然と共存する社会形成に必要な知識を学び、自然地理学的な環境理解を私達の社会・文化生活に関連づけて身に付けることである。

授業は以下のように、予習>>答え合わせ・解説>>演習の手順で進め、時間外学習として必ず予習をして授業に臨むように指示した。まず、事前に次の授業の内容の要点を整理したプリント（A4サイズ1枚）を配布し、教科書を参考にしながら空欄（主に地理学用語、しばしばグラフや図の読み取り）に記入してくるよう指示する。実際の授業では、冒頭5分ほどで近くの受講生同士で空欄の答え合わせを行った後、教員が受講生を指名して全体で答え合わせをする。その際、プリントの記載に沿って教員が事項の解説を行う。答え合わせの後、パワーポイントを用いて、教科書の図表や教員の用意した地理写真を提示し、受講生の理解を深めた。残りの時間（1時間ほど）で、資料映像の視聴（3回）や地形図の読図（3回）、いくつかの課題討議（地形発達の解釈や水資源問題の解決など）を行った。映像視聴や読図・課題討議にはワークシートを用意し、思考の言語化を図った。

2. 授業評価

今年度の受講生は教員養成課程と総合人間形成課程の1回生27人だった。このうち24人（3名は欠席）に、チェック式のアンケート調査を実施した。また、アンケート用紙には自由記述欄も設けた。

1) 事前学習のプリントの穴埋めは平均してどれくらいの時間がかかりましたか？

5分より短時間	0名 (0.0%)
およそ5～15分	9名 (37.5%)
およそ15～30分	11名 (45.8%)
およそ30分以上	4名 (16.7%)

2) 事前学習として教科書をどのように読みましたか？

プリントの穴埋めをするためにキーワードのみ拾い読みをした	14名 (58.3%)
次回の授業分を一通り読んでプリントの穴埋めをした。	9名 (37.5%)
次回の授業分の内容が分かるまで繰り返し読んで、プリントの穴埋めをした。	1名 (4.2%)
次回の授業分を読んでプリントの穴埋めをした上で、わからない言葉や事柄をネットや書籍で調べたりした。	0名 (0%)

3) この授業に関して、プリントの穴埋め以外の時間外学習をしましたか？

それ以外の時間外学習をした	2名 (8.3%)
それ以外の時間外学習をほとんどしなかった	19名 (79.2%)
どちらともいえない	3名 (12.5%)

4) 半期全体を通して、以下の授業内容の時間配分についてどう思いますか？

	教科書の解説	映像視聴	地形図読図や課題
多すぎる	1名 (4.2%)	0名 (0%)	0名 (0%)
少し多い	1名 (4.2%)	1名 (4.2%)	3名 (12.5%)
丁度良い	19名 (79.2%)	20名 (83.3%)	19名 (79.2%)
少し足りない	3名 (12.5%)	3名 (12.5%)	2名 (8.3%)
全く足りない	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)

5) 自由記述欄の記載

- ・説明がわかりやすかった。
- ・基礎的な地理の知識が得られて楽しい。
- ・もう少し緩急をつけた話し方で説明してほしい。
- ・毎回授業の方法など工夫しており、楽しんで学べる。
- ・映像を流してくれるから興味がわく。
- ・もう少し映像資料を見たい。
- ・プリントの穴埋め方式だったので、後で復習をするときにまとめやすかった。
- ・内容が難しくてよくわからなかった。
- ・どこが重要な用語なのかわかりにくかった。

3. 授業時間外学習の促進

本授業では毎回の予習を義務化して、時間外学習の促進に努めた。プリントの要点整理は基本的に教科書の記述に沿っており、受講生が空欄を埋められないことはほとんどなかった。その一方で、教科書の拾い読みで空欄埋めが可能であり、半数以上の学生がそのようにしたと答えている。とはいえ、穴埋めに要した時間は半数近くが15～30分で、15分以下が37.5%だった。教室の様子からは始業直前に穴埋め作業をしている受講生が時々見られたものの、他の受講生の答えを丸写ししている様子はなかった。

教員の指示したプリントの空欄埋め以外に、自主的に時間外学習をした受講生は2名で、それ以外のほとんどの受講生は、指示された作業以外の時間外学習をしなかったことになる。教科書を読んでわからない事柄や授業を終えて興味を持った事柄を書籍やインターネットで調べるような活動を期待していたが、そこまで発展させる受講生はほとんどいなかった。すなわち、“主体的な”学習はできていなかったと言える。また、授業時に事前学習で何か疑問・質問はなかったのか毎回問いかけたが、受講生から自主的な発言はなかった。穴埋めができたことがゴールになり、表面的な理解にとどまっていないのかという懸念がある。この点は、何かしら教員が働きかけたり発展学習を促したりする仕掛けが必要と考えられる。教員が準備・指示・誘導した学習のどこまでが受動的でどこからは主体的なのか、判断は難しい。受講生自身に学習課題を設定させて学習を進めるのは、“主体的な”学習と呼んでも良いのだろうか？ プリントの

空欄埋めとともに「教科書でわからなかった事項・興味を持った事項を取り上げ、書籍やインターネットで調べる」という課題を課せば、主体的な時間外学習と言えるのだろうか。結局は“課せられた”学習という点では真に“主体的な”学習と言えないが、「自分で課題を見つけ出し解決する」という一連の作業を習慣化することは、主体的な学習の第一歩として無意味ではないと考えられる。

4. 発展・応用的な学習時間の確保

事前学習を課したのは、時間外学習の促進とともに、発展・応用的な学習時間を確保する狙いもあった。90分の授業のうち、3分の1が基本事項の補足説明であり、残りの1時間は読図など演習の時間とした。

学習内容に応じて、地形図の読図や映像資料の視聴、水資源問題解決のためにどのような情報が必要か考える、など様々な活動を行った。読図や課題討議では、個人で地図を読んだり考えてワークシートに記入した後、グループを作って共有したり、教員からの指名に答えて全体に発言させたりした。

これらの活動の時間配分については、8割の受講生が「丁度良い」と答えており、概ね適切だったと判断される。昨年は「テキストの内容をもっと解説してほしい」という要望が多かった（38名の受講生のうち3分の1）が今期はそれが改善された。また「読図や事象を考える作業」に対して「もっとやってみたかった」という回答が昨年あったため、今期は課題数を増やした。地形図の読図は一般的に苦手意識を持つ学生も少なくないが、読図結果を受講生同士で教えあうなど幾つかの工夫をして読図の機会を増やすことで、苦手意識の軽減に成功していると推測される。

5. 総括

本授業では、事前の予習を毎回課すことで時間外学習を習慣化することができている。しかし、指示された作業（プリントの空欄埋め）以上の主体的学習は受講生にされていない。この点で、教員からのさらなる働き掛けで改善することが必要である。

また、映像視聴や読図・課題の時間を多くすることで、実際に受講生にとってどのような学習効果があったのか検証することを今後の課題としたい。